

2 「私たちの道徳」の活用

1 活用の留意事項

「私たちの道徳」は、学校での活用の他、家庭や地域での活用や、児童生徒が自主的に活用することもできる。各学校においては、家庭や地域での活用、児童生徒の自主的な活用が促されるよう、家庭や地域との連携を図るなどの適切な配慮が求められる。

また、「私たちの道徳」は、児童生徒が複数学年にわたって使用するものであり、考えたことや書き込んだことを振り返って、自らの成長を実感しながら道徳性を育んでいくことができる。各学校においては、道徳教育の全体計画や道徳の時間の年間指導計画に「私たちの道徳」を位置付けるなどして、活用方針や活用方法等についての共通理解を図り、児童生徒の発達の段階を踏まえて計画的に活用することが望まれる。

なお、道徳の時間においては、児童生徒が多様な角度から考えたり話し合ったりしながら、道徳的価値について考えを深めていくよう、「私たちの道徳」の効果的な活用の仕方も含めて指導方法を工夫していくことが求められる。その際、教師が一方的に教え込むのではなく、児童生徒の多様な発想や考えを大切にし、それを受け止めたり認めたりするなどして、話し合いに生かしていくことが重要である。児童生徒一人一人の道徳性に係る成長を促すことができるよう、発言をどのように受け止めて話し合いに生かすのかなども含め、指導の在り方を工夫し

2 活用の例

(1) 道徳の時間での活用

読み物資料は、道徳の時間の中心となる資料とすることが考えられる。コラムの中にも、工夫次第で道徳の時間の中心となる資料になるものもある。

また、「人物探訪」「メッセージ」などの人物のコラムや先人の格言などを活用して、道徳的価値について考えを深めたりまとめたりすることができる。

さらに、児童生徒が自分自身を見つめたり、考えを整理したりする際に、書き込み欄を活用することができる。

〔人物のコラム〕

この人について

message

自分の生き方や考え方から道徳的価値に関わることを学ぶことができる。

医師になったからには最期は人の役に立って死にたいと思っています。
山中伸弥

人物の言葉

人物の主張に関することが端的に表された言葉。この言葉に込められた道徳的価値などについて考えることができる。

P.42

ていくことも求められる。

● この本の使い方

「私たちの道徳」には、「この本の使い方」のページがある。学校だけでなく、家庭で家の人と話し合うための使い方を示している。

学校での活用に当たっては、道徳の時間だけでなく、いろいろな授業で、また休み時間や放課後においても活用できることを示している。



P.4

- 文章や資料を読んで、自分の考えをまとめたり、書いたりしてみよう。
- 「読み物」を読んで、感じたこと、考えたことを記録したり、友達と話し合ったりしてみよう。
- 「人物探訪」「この人のひと言」「メッセージ」などを読んで、考えたことをまとめたり、自分で見つけた言葉などを書いたりしてみよう。

活用例

● 生命尊重 3-1 (102から113ページ)

	学習活動	留意事項
導入	○これまでの生活を振り返って、生命のかけがえのなさについて感じたことを書いて発表する。(P.102~103)	・メッセージなどを基にして、主題に関わる問題意識をもたせたり、学習への雰囲気づくりをしたりする。
展開	○「キミばあちゃんの椿」を読んで話し合う。(P.108~113) ○「この人のひと言」について考える。(P.107)	・読み物資料を基にして、自分との関わりで道徳的価値の自覚を深める。 ・格言を基にして、道徳的価値に対する考えを深める。
終末	○「キミばあちゃんの椿」、「この人のひと言」を通して、感じたことや考えたことを書く。(P.113)	・書き込み欄を活用して、道徳的価値に対する自分の思いや考えをまとめる。

(2) 各教科等での活用

各教科等における道徳教育は、学校の道徳教育の目標や指導の重点に基づいて、意図的、計画的に行うことが大切である。

各教科等の指導を通じて児童生徒の道徳性を養うための視点としては、次のような点が挙げられる。

- ① 道徳教育の目標や内容と各教科等の目標、内容及び教材との関わりを通じた道徳性の育成
- ② 学習活動や学習態度への配慮による道徳性の育成
- ③ 教師の態度や行動からの感化を通じた道徳性の育成

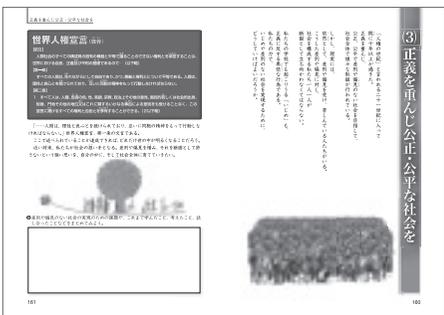
また、各教科等においては、その目標や内容に応じて、「私たちの道徳」の関連するページを活用し、児童生徒の道徳性を育成することができる。

活用例

社会科（公民的分野）

（二六〇・二六一ページ）

人権思想の歴史の学習において、一八世紀以降の世界の思想や第二次世界大戦後の世界や日本における基本的人権に関する取組を学ぶ際に、一六〇・一六一ページを活用して、人権の尊重の意義などについて話し合

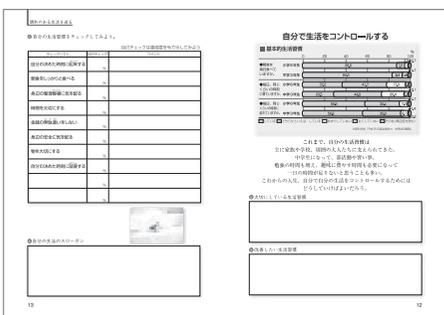


P.160～161

保健体育科（保健分野）

（十二・十三ページ）

健康の保持増進には、年齢、生活環境等に応じた食事、運動、休養及び睡眠の調和のとれた生活を続ける必要があることを理解する際に、十二・十三ページを活用して自分の生活を振り返る。



P.12～13

技術・家庭科（家庭分野）

（二八〇から二八三ページ）

家庭や家族の基本的な機能について知るとともに、家族関係をよりよくする方法を考える際に、一八〇から一八三ページを活用して、家族について振り返り、自分が築きたい家庭について考える。



P.180～181

総合的な学習の時間

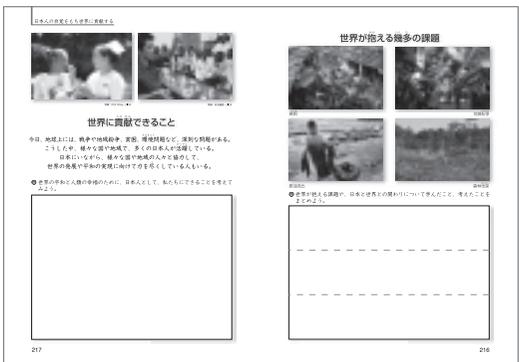
総合的な学習の時間では、学習の動機付けや自らの生き方を考える際に「私たちの道徳」を活用することができる。

例えば、「私たちの道徳」の内容から課題を見つけ、探究活動に取り組んでいくこともできる。また、横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して、自らの生き方を考える際に、「私たちの道徳」を活用することもできる。

国際理解を視点とした課題に関わる学習

（二二六・二二七ページ）

外国の文化や習慣などを理解し、日本人としての自覚をもって世界の人々と積極的に交流しようとする探究的な学習のきっかけとして、世界の平和と人類の幸福のために私たちにできることを考える際に、二一六・二一七ページを活用することができる。



P.216～217

特別活動

特別活動には、学級活動、生徒会活動、学校行事の内容がある。特別活動の指導に当たっては、集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、人間としての生き方についての自覚を深める際に、「私たちの道徳」を活用することができる。

学級活動（四〇・四一ページ）

自分自身の個性を考えて自尊心を育み、個性の伸長を図ろうとする際に、四十・四十一ページを活用して、自分の「良い所」をどう磨き、「改めたい所」をどう改善していくのか考える。



P.40～41

(3) 家庭や地域との連携による活用

「私たちの道徳」は、学校に備え置くのではなく、家庭に持ち帰って、家の人と一緒に話し合うなど家庭や地域での活用もねらいとしている。

家庭に持ち帰らせるに当たっては、例えば、学校・学級通信等を通じて家庭での活用の仕方等を伝えたり、保護者会などで、家庭における「私たちの道徳」の活用の仕方を説明したりすることで、家庭での効果的な活用が促進されるような働き掛けを積極的に行うようにしたい。

「私たちの道徳」には、家庭や地域で話し合ったことを書き込んだり、家の人が書き込んだりする欄が多く設けられており、家庭や地域で広く活用できる。

例えば、「私たちの道徳」を家庭や地域で活用することで、学校における道徳教育への理解を深め、学校と家庭や地域が協力し合って地域全体で道徳教育を行うことができる。

また、「私たちの道徳」を介して、児童生徒が家庭や地域の人と共に活動したり、語り合ったりする機会を設けることができる。

このように、「私たちの道徳」を活用して、学校と家庭や地域が連携して道徳教育を行い、児童生徒の豊かな心を育んでいくことが望まれる。

なお、家庭や地域での活用にあたっては、家庭や地域の様々な実情を考慮する必要がある、学校は日頃より家庭や地域との連携を図って教育活動を行うことが大切である。

●働くことの意義と社会貢献 (一七二から一七七ページ)

実際に働いている地域の人のインタビューを行って、働くことの意義や社会貢献について考える際に、一七二から一七七ページを活用する。



P.172~173

●家族の一員としての自覚 (一八四・一八五ページ)

家族の一員としての自覚をもって、充実した家庭生活を築く態度を養うために、一八四・一八五ページのコラム「誰かのために」を家の人と一緒に読んで感想を話し合え、家族に対する思いをまとめる。



P.184~185

活用例

●人間としての誇りある生き方 (二二三ページ)

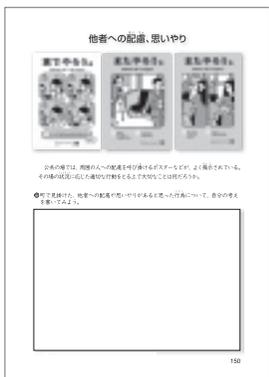
杉原千畝のコラムを読んで、千畝の生き方について家の人と感想を話し合う。また、その他、先人の伝記などから人間としての誇りある生き方を考えるきっかけとして、一二三ページを活用する。



P.123

●公德心や社会連帯の大切さ (二四八から二五三ページ)

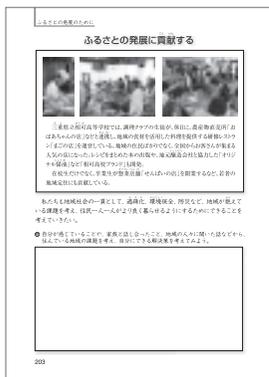
公德心や社会連帯の大切さについて生活の中で感じたこと、また、町で見掛けた思いやりのある行為について、家の人と一緒に話し合い、よりよい社会づくりに向けた具体的な関わりを考える際に、二四八から二五三ページを活用する。



P.150

●ふるさとの発展への貢献 (二〇三ページ)

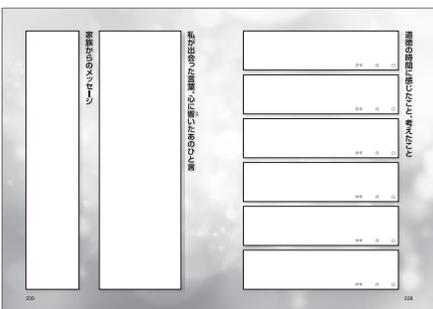
ふるさとに貢献するために、自分に何ができるかを考える際に、二〇三ページの三重県立相可高等学校の「まごの店」の運営などに関するコラムを活用する。また、地域が抱えている課題を考え、住民一人一人がよりよく暮らせるようにするためにできることを、家の人と話し合っ て二〇三ページに書き込む。



P.203

●道徳的な成長の実感 (二三八・二三九ページ)

道徳の時間に感じたことや考えたことについての書き込みを基に家庭で話し合い、家族からのメッセージをもらう。家の人から励ましの言葉などをもらうことで、道徳的価値への意識が高まり、さらなる実践意欲へとつながる。学校と家庭が連携して継続的に活用する。



P.238~239